



サポートJOYO



京都府立城陽養護学校地域支援センターだより

平成21年度
第3号

＜相談問い合わせ先＞ 京都府立城陽養護学校 地域支援センター「サポートJOYO」
〒610-0113 京都府城陽市中芦原1-4 TEL 0774-53-7100 FAX 0774-53-4044

ホームページ <http://www.kyoto-be.ne.jp/jyouyou-s>

(E-mail jyouyou-s@kyoto-be.ne.jp)

「特別支援教育研修会」への御参加ありがとうございました 参加者は約350名、活気のある充実した研修会になりました！

城陽養護学校では地域の皆さんと共に特別支援教育について研修を深める機会として、毎年夏に「特別支援教育研修会」を開催しています。より多くの方々に参加していただくため、文化パーク城陽での開催は、今年で3年目になります。

* 今年のテーマは *
* 「子どもがかわる・先生がかわる・親がかわる 教育で使える支援」 *
* ～ 応用行動分析的アプローチの活用 ～ *

小中学校・高校・幼稚園・保育所・特別支援学校の先生方に加え、医療現場や保健所、地域の障害者支援センターの職員の皆さんなど約350名の御参加をいただきました。このように多くの御参加をいただきましたことは、地域における特別支援教育への関心の高さや、取組の広がりと共に、幼児期から社会的自立まで、長いスパンに立った支援の継続の必要性を感じるところです。



井澤先生の講演

活発な御意見 ありがとうございました！

兵庫教育大学大学院 井澤信三先生の基調講演をもとに、本校校医 有賀やよい先生をコーディネーターとして、パネルディスカッションを行いました。京都府総合教育センター今田三保先生や、障害児(者)地域療育支援センターういのコーディネーター河野照正先生など、各方面からのコメントに加え、会場からも参加者の方に発言していただきました。それぞれの実践を出し合いながらとても活気のある研修会になりました。



会場からもご発言をいただきました

★★ 来年度も、7月末に特別支援教育研修会を予定しております。子どもたちはもちろん、子どもたちを支えるみなさんが元気の出る内容を…と考えておりますので、ぜひご参加下さい！！ ★★

◆ 参加者のアンケートから ◆

<今回の研修の内容について>

テーマのタイトルだけを見ると、少し難しそうだなと感じていましたが、とても具体的で分かりやすいお話でした。講師の先生方の、子どもたちへの温かいまなざしに感動しました。

毎年この時期に、講師の方々のお話を聞きながら、自分の日々の取組を振りかえったり、2学期からのことを考えたりできます。子どもたちと、焦らず温かく向き合うことの大切さ、そこに専門知識を取り入れることで、さらに効果的な支援が実るのだと感じました。

<基調講演について>

井澤先生のお話は、具体的に例を出して教えていただけだったので、普段自分が接する子どもたちを頭に浮かべながら聞くことができました。目の前の問題行動だけを見るのではなく、その前後を整理することで、子どもの行動を良い方向に変えていけるということが分かりました。2学期からもがんばろうと思いました。



問題行動を、子どもの障害のせいだけにしないで、むしろ環境を整える側(大人!!)の要因が大きいのだと実感しました。2学期からのヒントが多くありました。

普段の自分の関わりが、子どもたちに追われるように、その場その場になっていることに気付かされました。一つ一つ整理すると、原因がわかり、こちらも見通しが持てるということがわかりました。

<パネルディスカッションについて>

それぞれの専門分野の先生方からお話が聞けて良かったです。特に、ういるの河野さんがおっしゃった、「在学中の教師との出会いはその子にとって生涯のものとなる…」というお話が印象的でした。

フロアからの発言をたくさん取り上げて下さったので、どこの現場でも、自分と同じような悩みを抱えて奮闘されていることを知り、勇気が出ました。

<その他>

自分が今関わる子どもたちが、生涯にわたってどのような支援を受けることができるのかを考えました。乳児期から成人まで、一人の人生の「現在」に係わっているということに改めて気付かされました。

有賀先生のめりはりのある進行が、気持ち良かったです。どの先生のお話も、分かりやすくとても参考になりました。もっとお話を聞きたかったです。

通常学級での特別支援については、まだまだ整理されておらず、特に、個別の手だてを打つことと、全体に学力をつけることとのバランスが難しいと感じています。